

第45期 報告書

2013年4月1日～2014年3月31日

SAISON
INFORMATION
SYSTEMS
CO.,LTD.

株式会社 セゾン情報システムズ

証券コード：9640

未来へ導くチカラ
Power of leading you to future.

トップインタビュー

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より当社の経営に多大なるご協力とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第45期（2013年4月1日～2014年3月31日）の業績と中期経営計画の進捗状況についてご報告申し上げます。

2014年6月

代表取締役社長 宮野 隆



■ 当期のポイント ■

- ✓ 金融システム事業とHULFT事業が業績を牽引
情報サービス業界に新たな需要が生まれつつあることを追い風に、増収増益を達成
- ✓ 当期も新規開拓顧客数が順調に拡大
事業基盤の拡大に直結するエンドユーザー指向を継続し、新規顧客は順調に拡大
- ✓ 新商品・サービスの提供を通じた新領域の開拓も前進
センター移転をはじめ、整備してきた資源を活用した新商品・サービスに成果

● 当期の業績の総括と評価をお聞かせください。

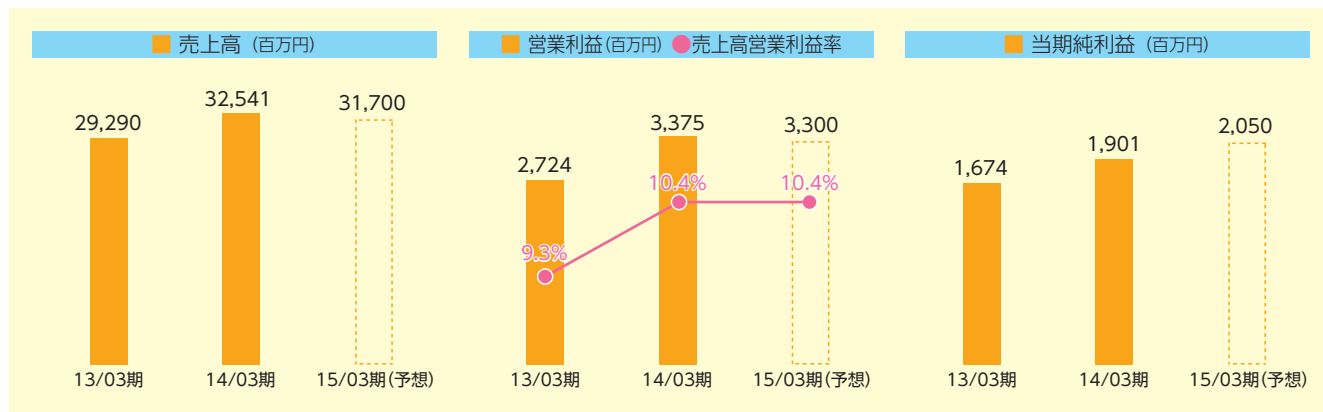
国内景気が緩やかな回復を見せ始めた中、情報サービス業においては、クラウドサービス、スマートデバイス、セキュリティ対策、ビッグデータ対応等への関心の高まりを受け、新たな需要が生まれ始めています。また、従来からの受注ソフトウェアやシステムなどの管理運営受託も前年水準を上回り活性化しつつある等、業界全体に明るい兆しが見え始めました。

こうした経営環境にあって、情報処理サービス、システム開発、パッケージ販売の3分野をバランスよく展開する当社グループの事業特性を活かし、各事業間のシナジーを高めながら、既存顧客との取引拡大、新規顧客の

開拓を進める戦略を推進してきました。また、クラウド型ホスティングサービスである「SAISOS[※]（サイソス）」の拡大、「HULFT[※]（ハルフト）」をはじめとするパッケージ製品の海外展開等、事業拡大を加速する商材販売に注力するとともに、開発案件については、開発ツール等を活用した短納期・高品質な製品開発に取り組み、事業基盤の強化を進めました。

その結果、当期の連結業績は、売上高32,541百万円、営業利益3,375百万円、当期純利益1,901百万円と増収増益となりました。

※SAISOSは、当社のクラウド型ホスティングサービスです。
※HULFTは、当社のファイル転送パッケージ製品です。
※GeneXusは、プログラムコードを自動生成する開発ツールで、ウルグアイARTech（アルテッチ）社の登録商標です。
※詳しくは、P14の用語解説も合わせてご覧ください。



●前中期経営計画の成果をどう捉えていらっしゃいますか。

前中期経営計画において、中期ビジョンとして「存在価値の高い企業へ」を掲げ、顧客ニーズにマッチした「商品・サービスの拡充」に努め、新規顧客を獲得するために「営業力の強化」を実施し、それぞれの施策の実行を支える「人材育成と活用」に取り組んでまいりました。

「営業力の強化」については、事業部間で顧客情報を共有するクロスセル営業を積極的に展開し、既存顧客の深耕や新規顧客数の獲得も進み一定の成果を上げることができました。

「商品・サービスの拡充」については、クラウド型サービスである「SAISOS」を中心としたデータセンタービジネスの拡大、(株)アプレッソとの協業によるミドルウェア製品のラインナップ強化、「HULFT」の中国版である「海度（ハイドウ）」の中国展開、高速開発ツール「GeneXus[®]（ジェネクスサス）」を活用した短納期・高品質の製品開発手法の確立等を実現してまいりました。

「人材育成と活用」については、常に成長意欲を持ち、

挑戦するという意識が浸透してまいりました。全社を挙げて目標設定した基本情報技術者の資格取得者が94%（業界平均40%程度）を超える等、チャレンジして、新たな価値を創造するという意識が高まり、文化として醸成されつつあると捉えています。

●新中期経営計画についてお聞かせください。

新たに策定した新中期経営計画のテーマは「布石を成果に～成長は挑戦の先に～」と決めました。これまで取り組んできた施策を確実に成果に結び付けるとともに、更なる布石を打つことで継続的に成長できる企業となるべく、これまで以上に挑戦していく、というコンセプトのもと、「事業基盤の拡充」「競争力の強化」「人材の育成と確保」を重点施策として取り組んでまいります。

「事業基盤の拡充」としては、前中期経営計画で獲得した新規顧客に対してクロスセルを展開することで、顧客基盤の充実を図ります。また、ストックビジネスの更なる拡大と利益率の向上を目指すとともに、新規事業や新たな商品・サービスの開発にもより一層注力します。

トップインタビュー

従来、個別企業向けに展開してきたサービスをモデル化し、横展開を図るほか、モバイル端末を活用した新サービスの開発につなげる等、資源の有効活用を図ってまいります。

「競争力の強化」としては、すでにリリースした商品やサービスについて、市場価値を高めて売上の拡大を図ります。また、引き続き生産性の向上と業務の効率化を目指すことにより、競争力を飛躍的に高めていきます。全社を通じた取り組みとしては、センタービジネスの確立・推進を実施します。従来、金融システム事業部・流通サービスシステム事業部のそれぞれの事業部内に「SAISOS」部隊を設置していましたが、当社のデータセンター内に一極集中してコストの最適化を進め、全社での利益率向上を図ってまいります。

「人材の育成と確保」としては、引き続き人材育成に注力するとともに、事業成長を支える人材を確保していきたいと考えています。そのために、働く環境・状況をより良くするため、ダイバーシティへの対応、多様なワークスタイルを実現し、個人のモチベーションを上げ、ひいては生産性の向上にもつなげていきたいと考え



ています。

これらの重点施策に全社一丸となって取り組み、新中期経営計画最終年度（2017年3月期）には売上高375億円、営業利益57億円の達成を目指します。

●株主の皆様へメッセージをお願いします。

前中期経営計画で、次なる成長に向け、様々な布石を打つことができましたが、更なる飛躍を目指すには、顧客ニーズの変化等を的確に捉えた商品やサービスを生み出すこと、そして、営業力と技術力の向上が欠かせません。現在発展途上にある事業も、新中期経営計画の中で成長軌道に乗せ、さらに事業バランスの良さを発揮させることで、着実に成長を積み重ねていく所存です。

なお、配当につきましては当初予定通り、中間配当金10円、期末配当金25円の年間35円とさせていただきます。

株主の皆様の期待に違わない成果を残せるよう従業員一同、鋭意前進してまいりますので、今後も末永くご支援いただきますようお願い申し上げます。



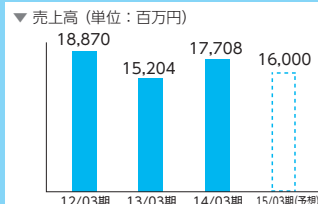
*掲載されている4つのセグメントの合算額と全社の業績値は、別途「その他調整等」があるため一致いたしません。

金融システム事業

売上 **177億円**
(前年同期比+16.5%)

利益 **10.5億円**
(前年同期比+0.04%)

- 情報処理サービスが増加したこと等により、売上は増加しました。
- 収益性の低い開発案件の割合が多かったこと等により、営業利益は微増となりました。
- 15/03期は、大型開発案件の収束に伴い売上は減少しますが、収益は14/03期並みを維持する計画となっています。



流通サービスシステム事業

売上 **45億円**
(前年同期比▲8.1%)

利益 **△0.1億円**
(前年同期は1.5億円)

- 新規顧客向けのシステム開発が堅調に推移したものの、既存顧客向けの情報処理サービスが減少したこと等により、売上は減少しました。
- 情報処理サービス及びシステム機器販売の売上減少に伴い収益性が低下したこと等により、営業利益は減少しました。

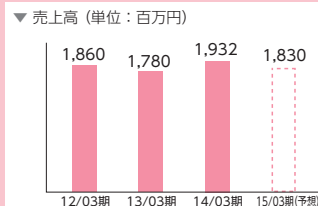


BPO事業

売上 **19億円**
(前年同期比+8.5%)

利益 **△3.9億円**
(前年同期は△2.6億円)

- 「Bulas Payslip Mobile[※](ビューラスペイスリップモバイル)」の拡販及び既存顧客向けのシステム開発案件が堅調に推移したこと等により、売上は増加しました。
- 情報処理サービスの運用コスト及び品質改善コストが増加したこと等により、営業利益は減少しました。

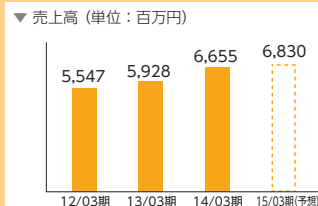


HULFT事業

売上 **66億円**
(前年同期比+12.3%)

利益 **26.9億円**
(前年同期比△3.7%)

- 「HULFT[※](ハルフト)」の累計出荷数は、約164,000本となり、導入社数は7,700社を超えました。
- 保守サービスが堅調に推移したこと、(株)アプレッソの業績が寄与したこと等により、売上は増加しました。
- 次期製品開発に係る研究開発コストが増加したこと等により、営業利益は減少しました。



※Bulas Payslip Mobileは、インターネットを利用して社員への給与明細を配信するサービスです。
 ※HULFTは、当社のファイル転送パッケージ製品です。
 ※詳しくは、P14の用語解説をご覧ください。

事業紹介



セゾン情報システムズは
トレンドに即したサービス
を展開しています

当社は4つの事業(金融システム、流通サービス
システム、BPO、HULFT)を展開しています。
ここでは、その一例をご紹介します。

より詳細な事業内容は、当社ウェブサイトに掲載しております。是非ご覧下さい。
右のQRコードもしくは以下のURLからアクセスいただけます。

<http://home.saison.co.jp/ir/privateinvestor/index.html>



クラウド

クラウドとは、インターネットを介したコンピューターの利用形態のひとつです。利用者自身でソフトウェアやハードウェアを保有・管理する必要がなく、インターネットへの接続環境さえ整っていれば活用できるのが特徴です。

金融システム事業

データセンターを利用した、
クラウド型ホスティングサー
ビスを提供しています。



HULFT事業



企業内のデータのやり取りを円滑に行う
クラウド製品を提供しています。

モバイル

モバイルとは、携帯電話やスマートフォン等の携行可能な通信機器のことを指します。外出先等いつでもどこでも自由にインターネットに接続することができ、現在では、ビジネス、プライベート問わずあらゆるシーンで利用されています。

BPO事業

給与計算、勤怠管理の業務を代行しており、携帯電話・スマートフォンで給与明細を照会できるサービスを提供しています。



飛行機のチケット予約や運行状況の確認のシステムを提供しています。

流通サービスシステム事業

データセンター

お客様の業務に必要なデータをお預かりし、運用管理等のサービス提供を通じてお客様の負荷を削減しています。



ビッグデータ

ビッグデータとは、従来のシステム等では記録や保管、解析が難しいような巨大なデータ群のことです。今まで見過ごされてきたデータ群を解析等することで、ビジネスや社会に有用な知見を産み出す可能性が高まるとされています。



テナント管理における売上管理・分析、家賃・契約管理等システムを提供しています。

流通サービスシステム事業

製品・サービスのご紹介《HULFT（ハルフト）のご紹介》

HULFTとは・・・

企業内のデータ連携はもちろんのこと、企業間でのデータのやりとりを安全・確実に自動で転送するソフトウェアです。多くの企業のシステム間連携にかかわる問題解決の一手段として利用されています。

特長1 確実なファイル転送



大量のデータであっても、素早く・確実に転送します

特長2 高度なセキュリティ機能



転送データの盗聴・漏えい・欠落・改ざんを検知し、データを守ります

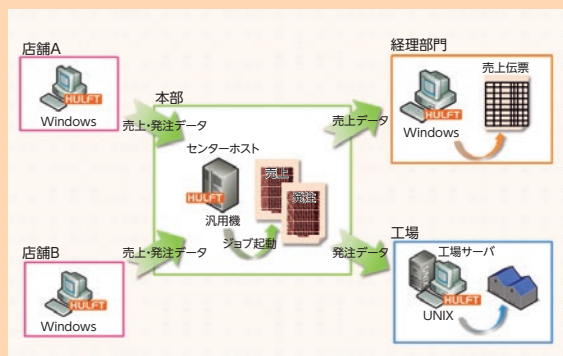
特長3 マルチプラットフォーム対応



様々なOS等に対応しているため、OS等の違いを意識することなくデータ連携が可能です

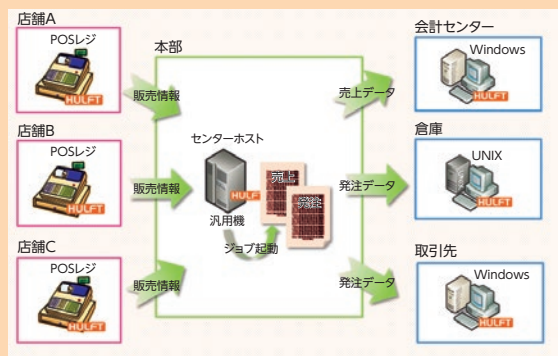
HULFTはこんなところで利用されています

受発注システムでのHULFT使用例



各店舗の売上データ、発注データをHULFTで本部にデータ転送し、本部側では、HULFTの機能を実行することにより、経理部門へは売上データを、工場へは発注データをそれぞれ転送します。このような受発注システムの一連のデータ連携をHULFTは支援しています。

POSシステムでのHULFT使用例



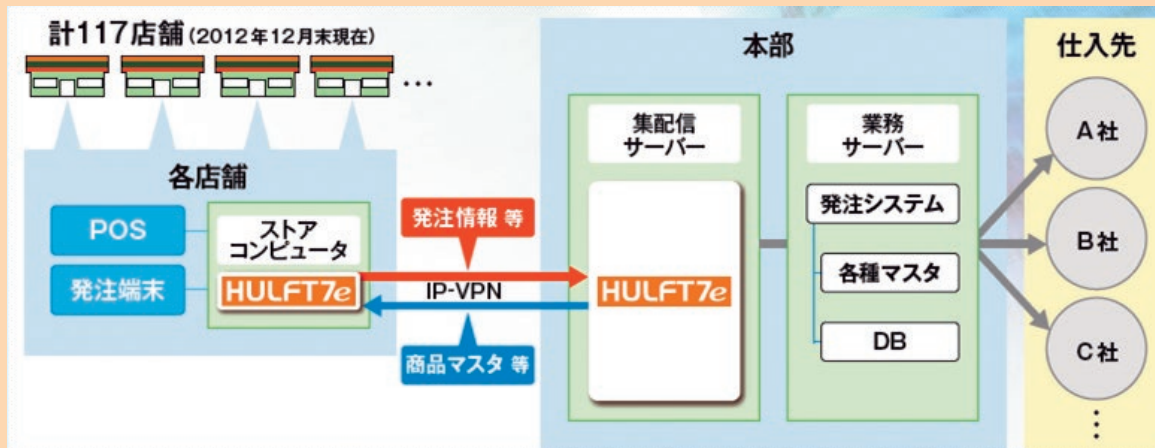
各POS端末の販売情報をHULFTで本部にデータ転送し、本部側では、HULFTの機能を実行することにより、会計センターには売上データを、倉庫や取引先には発注データをそれぞれ転送します。流通業における発注、納品を実現するシステムにもHULFTは貢献しています。

導入事例：セブンイレブン・インドネシア様

コンビニの本質を手作業で学ぶため、各種業務システムは最小限の範囲でスタートしたことで、以下の煩雑な作業が発生していました。

- ・各店舗のストアコンピュータのデータ更新は、本社スタッフが各店舗にUSBメモリで配布。
- ・売上、発注の計算は各店舗で行い、印刷された発注台帳を使用するため、本社では、台帳印刷業務が膨大に。
- ・各店舗からメールで送られる発注情報を本社スタッフが編集し、仕入先へ発注。

50店舗を超えたあたりから手作業の限界を迎えたため、上記の課題等を解決するためデータの伝送を検討され、最終的にHULFTの導入を決定していただきました。



- 1 確実なデータの送達により、各種マスタ情報は、各店舗に即日反映が可能となり、ビジネスサイクルが大幅に改善されました。
- 2 発注端末の導入と本部サーバへのデータ伝送化により、台帳印刷が不要となり、プリンターやトナーの大幅なコスト削減ができました。
- 3 過度な作りこみすることなく、各種システムへのデータ連携開発が容易となりました。

財務情報

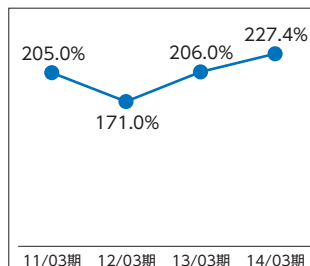
連結貸借対照表

(単位：百万円)

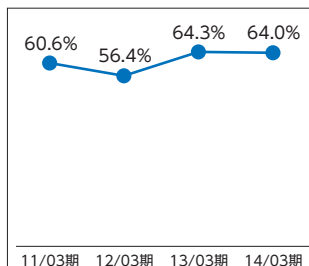
科目	期別 当期末 (2014年3月31日現在)	前期末 (2013年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	15,964	13,845
固定資産	10,446	11,221
有形固定資産	3,087	3,675
無形固定資産	4,182	4,328
投資その他の資産	3,176	3,216
資産合計	26,411	25,066
負債の部		
流動負債	7,021	6,703
固定負債	2,472	2,202
負債合計	9,494	8,906
純資産の部		
株主資本	17,372	16,037
資本金	1,367	1,367
資本剰余金	1,462	1,462
利益剰余金	14,542	13,207
その他の包括利益累計額	△472	70
その他有価証券評価差額金	106	67
為替換算調整勘定	12	2
退職給付に係る調整累計額	△591	—
少数株主持分	16	52
純資産合計	16,916	16,160
負債および純資産合計	26,411	25,066

〈安全性を示す経営指標〉

〈流動比率〉



〈自己資本比率〉



資産の部

■ 流動資産

現金及び預金が増加したこと、有価証券が増加したこと等により、2,118百万円増加しました。

■ 固定資産

減価償却によりリース資産が減少したこと等により、774百万円減少しました。

以上を主な要因として、1,344百万円増加しました。

負債の部

■ 流動負債

未払法人税等が増加したこと等により、318百万円増加しました。

■ 固定負債

退職給付に係る負債が増加したこと等により、270百万円増加しました。

以上を主な要因として、588百万円増加しました。

純資産の部

当期純利益の計上により利益剰余金が増加したこと等により、純資産は755百万円増加しました。

連結貸借対照表から読み取ることのできる安全性を示す経営指標をご紹介します。

流動比率（短期的な支払能力を示す指標）

流動資産の増加によって、流動比率は21.4ポイント増加し、支払が必要な負債の2倍を上回る流動資産を保有しており、安全性は高い状態にあります。

自己資本比率（返済不要である自己資本の総資本に対する割合）

借入金等の有利子負債はなく、安全性の高い状態を維持しています。

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別 当期 (2013年4月1日～ 2014年3月31日)	前期 (2012年4月1日～ 2013年3月31日)
売上高	32,541	29,290
売上原価	24,820	22,904
売上総利益	7,721	6,385
販売費及び一般管理費	4,345	3,660
営業利益	3,375	2,724
営業外収益	70	61
営業外費用	55	49
経常利益	3,390	2,736
特別利益	10	24
特別損失	101	14
税金等調整前当期純利益	3,299	2,746
法人税等	1,394	1,071
少数株主損益調整前当期純利益	1,904	1,674
当期純利益	1,901	1,674

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別 当期 (2013年4月1日～ 2014年3月31日)	前期 (2012年4月1日～ 2013年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,335	4,728
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,256	△1,585
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,022	△1,001
現金及び現金同等物に係る換算差額	5	△3
現金及び現金同等物の増減額	2,061	2,137
現金及び現金同等物の期首残高	7,489	5,351
現金及び現金同等物の期末残高	9,550	7,489

売上高

金融システム事業において大型システム開発案件が堅調に推移したこと、HULFT事業において保守サービスが堅調に推移したこと等により、32,541百万円（前年同期比11.1%増）となりました。

営業利益

データセンター移転完了に伴い並行稼動コストが減少したこと等により、3,375百万円（前年同期比23.9%増）となりました。

当期純利益

一部の事業資産の減損処理を実施したこと等により、1,901百万円（前年同期比13.5%増）となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、システム開発に係る外注費等の仕入債務が801百万円減少したこと、法人税等388百万円を納付したこと等により、得られた資金は4,335百万円（前年同期比8.3%減）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

「SAISOS*（サイソス）」関連の設備投資等により、投資活動に使用した資金は1,256百万円（前年同期比20.7%減）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金を支出したこと等により、財務活動に使用した資金は1,022百万円（前年同期比2.1%増）となりました。

※SAISOSは、当社のクラウド型ホスティングサービスです。
※詳しくは、P14の用語解説をご覧ください。

株主スクエア 第45期上半期報告書「株主様アンケート」集計結果

第45期上半期報告書送付の際に実施いたしました「株主様アンケート」にて、多くの株主様からご回答をいただきました。厚くお礼申し上げます。ここではアンケートの調査結果（抜粋）をご報告するとともに、代表的なご質問・ご要望をご紹介します。

アンケート調査結果（回答数……3,344件 回答率……73.6%）

当社株式の保有期間

1年未満	39.3%
1～2年未満	38.0%
2～3年未満	9.3%
3年以上	12.8%

当社株式の保有理由について

(複数回答)	
回答の多かった5項目	
1. 配当利回り	45.5%
2. 安定性	38.2%
3. 事業内容	31.7%
4. 将来性	31.6%
5. 業績	20.3%

第45期上半期報告書で興味を持たれた項目

(複数回答)	
回答が多かった5項目	
1. 事業紹介	54.4%
2. 配当	50.1%
3. 株主スクエア	44.3%
4. セグメント別の状況	38.1%
5. トップインタビュー	36.8%

今後お知りになりたい当社情報について

(複数回答)	
1. 今後の戦略・計画について	57.8%
2. 事業内容の詳細	36.4%
3. 配当について	34.6%

「当社株式の保有理由について」は「配当利回り」の回答率が最も高く、伴って、「第45期上半期報告書で興味を持たれた項目」についても、「配当」の回答率が高い結果となりました。

また、「第45期上半期報告書で興味を持たれた項目」及び「今後お知りになりたい当社情報について」において「事業紹介」や「事業内容」、「今後の戦略・計画」について多くのご回答をいただいていることから、右ページに解説を掲載いたしました。

今後も一層わかりやすい情報提供を通じて、株主の皆様にも末永くご愛顧いただけるよう努めてまいります。

株主の皆様から多く寄せられたご意見・ご質問へ回答いたします

Q. 今後どのような事業計画や成長戦略を描いていくのか、これからどのように業績を伸ばしていくのか、知りたいです。

第46期より新たな中期経営計画が始まりました。第45期及び第43期-第45期の中期経営計画の振り返り、新たな中期経営計画については、トップインタビュー内にて掲載しておりますのでご覧ください(P.1)。また、今後も進捗等を報告してまいります。



Q. 各事業の内容や、取り扱っている製品・サービスについて教えてください。

各部門の業務や取り扱っている製品・サービスの内容についてご理解いただけるよう、事業報告書内で取り上げています。今回は7,700社のお客様にご導入いただいているHULFTについて事例を交えながらご紹介しております(P.7)。



Q. アンケートで挙げられた意見等について、どのように活用されているのか知りたいです。

株主の皆様からいただいた貴重なご意見については、該当する部門へ情報連携しております。例えば、この度営業に関する取り組みについてご意見をいただきました。いただいたご意見については既に該当部門に内容を連携し、営業活動に活かしております。



今後の事業報告書の紙面づくりやIR活動の参考にするために、同封の株主様アンケートへのご記入、ご返送をよろしくお願い申し上げます。ご回答いただいた単元株主様(100株以上の当社株式をご所有の株主様)には、もちろんQuoカード500円分を進呈いたします。また、単元未満株式をお持ちの株主様(100株に満たない当社株式をご所有の株主様)には、抽選でQuoカード500円分を進呈いたします。詳細につきましては、アンケートはがきをご参照ください。

※Quoカードの発送は順次対応いたしますが、お時間をいただくこともございます。ご了承ください。

配当政策

当社では、収益の向上が株主の皆様への利益還元につながる業績との連動性強化と、万一業績が悪化しても一定の配当水準を維持する安定配当の両立を図りたいと考えております。その考えのもと、利益配分に関しては以下の基本方針を掲げております。

当社の配当に関する基本方針

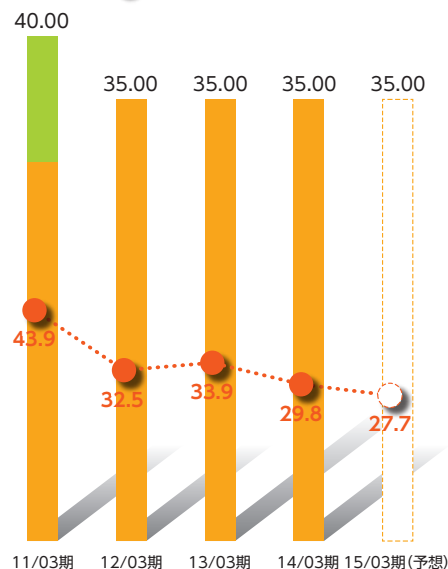
- **業績との連動性強化**
 - ・連結当期純利益の3割前後を目安に配当を確保いたします。
- **安定配当**
 - ・万一の業績悪化時にも、1株当たり10円の配当金を維持するよう努めております。
- **中間配当について**
 - ・業績連動型の配当方針をとっているため、通期の業績が確定してから配当総額を決定しておりますが、より株主の皆様へ利益還元できるよう、安定配当部分の10円を中間配当として実施いたしております。

配当性向の変化についての補足

- 2014年3月期は、利益水準、財務状況、株主の皆様への利益還元などを総合的に勘案し、年間の普通配当を1株当たり35円といたしました。
- 2011年3月期は、業績が好調であったことから、1株当たり10円の特別配当を実施いたしました。これにより、1株当たりの配当は普通配当を加えた40円となりました。

1株当たり配当金／配当性向の推移

- 1株当たり配当金（普通、単位：円）
- 1株当たり配当金（記念、特別、単位：円）
- 配当性向（連結、単位：%）



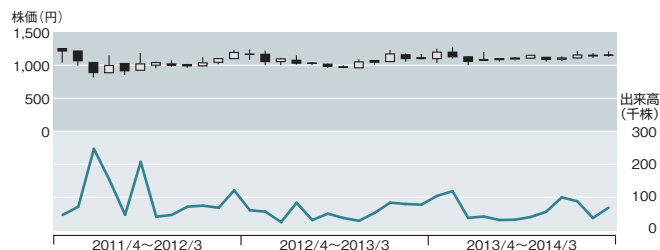
株式の状況

発行可能株式総数 60,000,000株
発行済株式の総数 16,200,000株
株主数 6,341名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社クレディセゾン	7,588	46.84
ロイヤルバンク オブ カナダ トラスト カンパニー (ケイマン) リミテッド	4,488	27.71
セゾン情報システムズ社員持株会	596	3.68
株式会社インテリジェントウェイブ	500	3.09
大日本印刷株式会社	307	1.90
有限会社福田製作所	200	1.23
株式会社みずほ銀行	196	1.21
協和青果株式会社	101	0.62
株式会社三菱東京UFJ銀行	80	0.49
富士通株式会社	80	0.49

株価・売買高の推移



所有者別分布状況

株式分布状況

株主	千株	%
金融機関	451	2.79
証券会社	27	0.17
その他の国内法人	8,812	54.40
外国法人等	4,661	28.78
個人その他	2,246	13.86

株主数分布状況

株主	名	%
金融機関	9	0.14
証券会社	14	0.22
その他の国内法人	41	0.65
外国法人等	44	0.69
個人その他	6,233	98.30

◇用語解説 ～よく使われる用語をピックアップしました～

BPO (ビーピーオー)	Business Process Outsourcingの略で、企業が自社の業務処理を外部に委託することを指します。当社では人事業務にかかわる業務を受託しています。
Bulas (ビューラス)	BPO事業で提供している、給与計算や勤怠管理のサービスです。
Bulas Payslip Mobile (ビューラスペイスリップモバイル)	BPO事業で提供している、インターネット経由で給与明細を社員に配信するサービスです。
HULFT (ハルフト)	システム間でデータをやり取りする際のファイル転送を実行するパッケージ製品です。WindowsやUNIX (ユニックス) といった、異なるプラットフォーム間でもデータのやり取りを可能にしています。
SAISOS (サイソス)	当社が提供するクラウド型ホスティングサービスです。お客様のデータ等を当社でお預かりし、お客様は自前の設備を持つことなく、サービスを提供することができます。

会社情報 (2014年3月31日現在)

会社概要

商 号 株式会社セゾン情報システムズ
SAISON INFORMATION SYSTEMS CO.,LTD.
設立年月日 1970年9月1日
資 本 金 13億6,768万7,500円
従 業 員 数 1,258名(連結)、773名(個別)
本店所在地 東京都豊島区東池袋三丁目1番1号
TEL:03(3988)2020(代表)

役員構成

代表取締役会長	横	山	三	雄
代表取締役社長	宮	野		隆
取 締 役	野	津	浩	生
取 締 役	西	川	信	次
取 締 役	瀧	澤		靖
取 締 役	水	上	龍 太	郎
取 締 役	赤	木		修
取 締 役	土	橋	眞	吾
取 締 役	水	江	司	二
取締役(非常勤)	安	達	一	彦*
取締役(非常勤)	川	野	忠	明*
監 査 役	菅	崎		悟
監 査 役	北	條	愼	治*
監査役(非常勤)	三	木		茂*
監査役(非常勤)	石	井	泰	次*

* 社外取締役、社外監査役

関係会社の状況

株式会社フェス	資本金 : 6,000万円 出資比率 : 100% 事業内容 : 情報処理サービス
世存信息技术(上海)有限公司	資本金 : 6,000万円 出資比率 : 100% 事業内容 : ソフトウェア開発 パッケージ販売
株式会社アプレッソ	資本金 : 2億6,700万円 出資比率 : 97.63% 事業内容 : ソフトウェアパッケージの開発、販売、サポート

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	3月31日から3ヶ月以内
配当金受領株主確定日	3月31日及び中間配当を行う場合は 9月30日
単 元 株 式 数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社
〔郵便物送付先〕	〒168-8507
〔電話照会先〕	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL : 0120-288-324 (フリーダイヤル)

SAISON
INFORMATION
SYSTEMS
CO.,LTD.

株式会社 セゾン情報システムズ

<http://home.saison.co.jp/>



復興特別所得税に関するご案内

「復興財源確保法」(略称)の施行により、配当等に係る所得税に対し、2013年1月1日から2037年12月末まで、復興特別所得税として所得税額×2.1%が追加課税されます。

	2013年1月1日～ 12月31日	2014年1月1日～ 2037年12月31日
所得税	7%	15% (※)
復興特別所得税	0.147%	0.315%
住民税	3%	5% (※)

※2013年12月31日をもって軽減税率の適用は終了しました。